

昭和四十七年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議錄第一号

館山市議 会



# 目次

|                       |       |    |
|-----------------------|-------|----|
| 日時                    | ..... | 一  |
| 場所                    | ..... | 一  |
| 出席議員                  | ..... | 一  |
| 欠席議員                  | ..... | 一  |
| 出席説明員                 | ..... | 一  |
| 出席事務局職員               | ..... | 二  |
| 議事日程                  | ..... | 二  |
| 開會                    | ..... | 二  |
| 議長の報告                 | ..... | 二  |
| 議案の配付                 | ..... | 三  |
| 會議録署名議員の指名            | ..... | 三  |
| 会期の決定                 | ..... | 三  |
| 提案理由の説明               | ..... | 三  |
| 報告第二号                 | ..... | 五  |
| 議案第四十四号ノ議案第五十三号（内容説明） | ..... | 六  |
| 延會                    | ..... | 一八 |
| 本日の會議に付した事件           | ..... | 一八 |

一、昭和四十七年六月六日（火曜日）

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

|       |        |      |        |
|-------|--------|------|--------|
| 一 番   | 吉田 勇治郎 | 二 番  | 林 豊    |
| 三 番   | 流山 源次郎 | 四 番  | 鈴木 稔   |
| 五 番   | 近藤 好雄  | 六 番  | 栗原 一雄  |
| 八 番   | 石井 武敏  | 一〇 番 | 渡辺 軍治郎 |
| 一 番   | 山本 昇   | 一 番  | 藤田 益治  |
| 一 番   | 五十嵐 昇  | 二 番  | 伊賀 多朗  |
| 一 番   | 和田 一郎  | 三 番  | 伊賀 多朗  |
| 一 番   | 安西 益男  | 四 番  | 井 謹爾   |
| 一 番   | 安西 益男  | 五 番  | 井 謹爾   |
| 二 番   | 君塚 喜三  | 六 番  | 島 野茂樹郎 |
| 二 番   | 田村 源治郎 | 七 番  | 鈴木 茂樹郎 |
| 二 番   | 西村 真次  | 八 番  | 鈴木 茂樹郎 |
| 二 番   | 飯田 義男  | 九 番  | 鈴木 茂樹郎 |
| 二 番   | 田中 禄郎  | 一〇 番 | 鈴木 茂樹郎 |
| 三 〇 番 | 遠山 ヨネ子 | 一一 番 | 鈴木 茂樹郎 |

一、欠席議員 三名

一、出席説明員

|             |       |             |        |
|-------------|-------|-------------|--------|
| 市 長         | 本間 謙  | 助 役         | 畠 山 伝  |
| 収入 役        | 高木 哲三 | 秘書 課長       | 太田 博雄  |
| 人事 課長       | 小沢 正治 | 企画 課長       | 伊藤 幸太郎 |
| 庶務 課長       | 小倉 澄男 | 財政 課長       | 長谷川 広治 |
| 兼 国 体 局 次 長 |       | 兼 国 体 局 次 長 |        |



|           |         |            |       |
|-----------|---------|------------|-------|
| 市民課長      | 佐野 甲子郎  | 稅務課長       | 越路 良夫 |
| 収納課長      | 横溝 功    | 商工課長       | 鈴木 力  |
| 農産課長      | 石井 謀    | 水産課長       | 谷 茂生  |
| 保健課長      | 綱島 憲治   | 衛生課長       | 牧野 喜一 |
| 水道課長      | 大嶋 重義   | 土木課長       | 飯田 治男 |
| 交通課長      | 山口 一    | 交通課主幹      | 岩田 実  |
| 市民センタ     | 長 羽山 房雄 | 福祉事務所      | 森 信次  |
| 教育 長      | 高木 正    | 教育委員会      | 黒川 芳郎 |
| 教育委員 長    | 小宮 義夫   | 庶務課補佐      | 川上 賢爾 |
| 教育委員 長    | 佐野 哲男   | 選挙管理委員会書記長 | 高山 隆男 |
| 社会教育課長    | 榎本 繁    | 農業委員会      | 岩崎 一郎 |
| 監査事務局 長   |         | 事務局 長      |       |
| 一、出席事務局職員 |         |            |       |
| 事務局 長     | 高尾 豊    | 事務局補佐      | 脇田 元始 |
| 書記        | 兵藤 恭一   | 書記         | 鈴木 哲  |
| 書記        | 渡辺 弘    | 書記         | 福田 英雄 |

| 議案第四十六号                       | 議案第四十七号                          | 議案第四十八号                      | 議案第四十九号                   | 議案第五十号                     | 議案第五十一号         | 議案第五十二号                          | 議案第五十三号                 |
|-------------------------------|----------------------------------|------------------------------|---------------------------|----------------------------|-----------------|----------------------------------|-------------------------|
| 館山市国民健康保険稅条例の一部を改正する条例の制定について | 館山市学校安全共済掛金徵收条例の一部を改正する条例の制定について | 館山市立幼稚園設置条例の一部を改正する条例の制定について | 館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定について | 館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について | 字の区域及び名称の変更について | 千葉県競輪組合の構成団体数の増減及びこれに伴う規約の改正について | 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算(第二号) |

一、議事日程(第一号)  
 昭和四十七年六月六日午前十時開議  
 日程第一 議事録署名議員の指名  
 日程第二 会期の決定  
 日程第三 報告第二号 財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出について

議案第四十四号 昭和四十七年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について  
 議案第四十五号 館山市市稅条例の一部を改正する

開 会 午前十時八分開議  
 議長(吉田勇治郎君) ただいまの出席議員数二十四名、これより昭和四十七年第二回市議定会定例会を開会いたします。  
 議長(吉田勇治郎君) 本定例会議案審査のため地方自治法百二



十一條の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がございましたので御了承願います。

なお、監査委員より二月乃至四月実施の監査の結果が報告されております。それぞれお手もとに配付の印刷書により御了承願います。

この際おはかりいたします。季節もおいおい炎暑の候となりますので当分の間略衣により会議を行ないたいと思います。御異議ございませんか。―御異議なしと認めます。よって決しました。

### 議案の配付

○議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはありませんか。―配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表によりおこないます。

### 会議録署名議員の指名

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、会議録署名議員の指名をおこないます。

一番議員山本昇君、二三番議員菊井敏博君以上両君を指名いたします。

### 会期の決定

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、会期の決定をおこないます。

本定例会の会期につき議会運営協議会の意見は本六月六日から六月十二日までの七日間ということであります。

おはかりいたします。会期を七日間と定めますことに御異議ございませんか。―御異議なしと認めます。よって会期は六月六日から六月十二日までの七日間と決定いたしました。

暫時休憩いたします。直ちに全員協議会を開催いたしますので議員控室に御参集願います。

午前十時十二分 休憩  
午後一時 五分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十四名、休憩前に引き続き会議を開きます。

### 提案理由の説明

○議長（吉田勇治郎君） この際本定例会招集について市長のあいさつ並びに提案理由の説明を求めます。

（市長本間 譲君登壇）

○市長（本間 譲君） 開会にあたりましてごあいさつ並びに議案の説明を申し上げます。

本日、六月市議会を招集し、当面する諸案件について御審議をお願いいたすわけであります。その前に一言お祝いの言葉を申し上げます。

先ほど関東市議会議長会及び全国市議会議長会から秋山大三郎議員さんが永年勤続の表彰の光栄に浴され、また吉田議長さんには全国国会对策委員会の委員長として御尽力された功績に対する感謝状がそれぞれ伝達されましたことは誠に荣誉と存する次第であります。ここにあらためてお祝いを申し上げますとともに、今後とも市勢伸展のため、よろしく御支援、御協力をお願い申し上げます。



げる次第でございます。

さて、本日提案いたしました案件は報告関係で一件、条例関係等の一般議案で九件、予算関係議案で一件であります。この概要につきまして御説明を申し上げます。

まず、報告関係といたしまして、財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出であります。これは市が公社に出資と損失補償をしている関係から、法の規定によりその経営状況について説明する書類を議会に提出し、これが経営の適正な執行及び効果について御報告申し上げようとするものであります。

次に条例関係としまして、市税条例の一部改正であります。これは地方税法の一部を改正する法律が、本年三月三十一日に施行されたことに伴いまして、個人の市民税の非課税規定のうち障害者等の非課税制限限度額の引き上げをはじめ、関係条項を改正、整備しようとするものであります。

次に国民健康保険税条例の一部改正であります。本年三月の予算議会において国保税の三五・四％の引き上げを予定し、その際六月本算定時において種々の条件を検討し、極力引き下げをはかることをお約束申し上げたわけでございます。予算算定の結果二八％弱の引き上げをせざるを得ないとの結果に相なり、そのための改正及び地方税法の改正に伴ない低所得者に対する国保税の軽減をはかるため条例の改正をしようとするものであります。

次に学校安全共済掛金徴収条例の一部改正であります。これは日本学校安全会法施行令の改正により、本年の四月一日から徴収金が改正された関係から、児童生徒の保護者から徴収する共済掛金の額を改めようとするもので、義務教育管理下における学校

安全の普及充実をはかり円滑な実施を期そうとするものであります。

次に館山市立幼稚園設置条例の一部改正であります。本年九月開設を予定しております豊房幼稚園の位置及び名称を新たに加えようとするものであります。これは市内十地区のうち、豊房地区が未設置でありますので、これを設置しようとし、幼児教育の充実を期そうとするものであります。

また児童福祉関係議案として、本年三月予算で決議をいただきました神戸、富崎地区を対象とした保育園を新設することに伴い、その名称、位置を条例に加える館山市保育園条例の一部改正があります。本施設は本年九月開園を予定して準備を進めておりますが、これの設置によりまして、両地区における保育に欠ける幼児の健全育成の向上が大いに期待されるところであります。

次に館山市都市公園条例の一部改正であります。去る三月二十一日、中央公園の一部が完成いたしましたので、名称、所在地を加え、条例に基づいて管理しようとするものであります。

このほか、本年六月に支給する期末手当の特例条例の制定があります。

次に一般議案としまして、字の区域及び名称の変更であります。これは藤原地区内の畑及び山林について区画整理いたしましたに伴い、このたび千葉県知事の換地計画の認可を受けるにあたり、字の区域及び名称変更を行なうとするもので、法の定めるところにより議会の議決をお願いするものであります。

次に千葉県競輪組合の構成団体数の増減及びこれに伴う規約の改正についてありますが、本案は茂原市と長生郡本納町との廃



置分合に伴って新たに設置された茂原市を加えさせ、及び昭和四十五年七月一日以降市制施行した我孫子市、鴨川市、鎌ケ谷市、君津市及び富津市を加入させ、並びにこれに伴う組合規約を変更することについて、法の規定に基づき議会の議決をお願いするものであります。

次に予算関係としまして、一般会計補正予算第二号であります。歳入歳出予算補正としまして、今回一千五十八万一千円の追加をお願いいたしたいわけであり。支出の主なものとして、まず総務費関係であります。交通安全施設整備事業として歩道の新設工事費百万円、次に農林水産業費として国有農地売り払いに伴い実測業務に要する経費として八十八万円、また船形、富崎漁港工事につきましては、このたび県から工事費の内示がありましたので、地元負担金として七百七十八万二千円支出しようとするものであります。

次に教育費としまして、九月畑校舎の廃止に伴いまして畑部落の児童を豊房校舎へ通学させるための経費として五十万六千円ほどが主なものであります。この財源としましては、国及び県支出金三百三十八万九千円、他を一般財源により充当しようとするものであります。

以上、簡単な説明でございましたが、詳細につきましては関係課長から説明を申し上げますので、よろしく御検討を承るよう申し上げます。

議長（吉田勇治郎君） 以上で市長のあいさつ並びに説明を終わります。

## 議案の上程

議長（吉田勇治郎君） 日程第三、報告第二号財団法人館山市開発公社の経営状況説明書の提出についてを議題といたします。

### 議案の内容説明

企画課長（伊藤幸太郎君） 昭和四十六年度におきますところの開発公社の決算の状況、事業の報告等につきまして申し上げます。

まず、四十六年度におきます公社の事業報告でございますけれども、これはお手もとの資料の一ページに記載してございますが、まず受託事業といたしまして、第一中学校用地の買収、造成、それから庁舎の増築、同じく図書館の新築等でございます。

次に公社事業といたしましては、渚、平砂浦、巴原、青柳団地等の拡充のための隣接地の購入、それから青柳団地、渚団地の造成工事の実施等でございます。

以下ブルドーザー関係、ミンク関係、売り上げ等につきまして記載のとおりでございますので御了承いただきたいと思います。次に決算の状況でございますが、お手もとに損益計算書、それから貸借対照表、財産目録等関係書類が添付してございますので御参照いただきたいと思います。四十六年度の決算の結果といたしまして、四十六年度の当期剰余金が百七十三万三千四百七円と相なったわけでございます。前年度からの繰越剰余金が一千万七千三百六十九円でございますので、合計といたしまして千二百八十万千七百十六円の剰余金でございます。ただいま申し上げます剰余金は、その処分といたしましては次年度へ繰り越したいというところでございますので御了承いただきたいと思います。



ます。なお、この決算につきましては去る五月の二十五日に公社の監査委員によりまして、監査の結果の報告が添付してございまして御承知いただきたいと思います。

以上が昭和四十六年度におきます公社の事業の内容、決算の概要でございます。

次に四十七年度におきますところの同じく公社の事業の計画、さらに資金計画等につきまして御説明申し上げます。これもお手もとにお配りしてございますとおりでございますが、まず事業計画といたしましては、新規分といたしまして、館山市からの受託舗装工事、これが五千五百万円を一応予定いたしましたのでございます。

それから継続分といたしましては、ここに記載のとおり、まず受託土地といたしまして、一中用地の造成工事。それから北条小学校北側の道路の用地の関係、千葉市臨海施設の整地事業等でございます。

次に受託舗装といたしまして、市道の舗装事業、これは前年度工事の未払分を八千三百万ばかり予定したものでございます。

次に分譲土地といたしましては、渕の住宅団地、同じく青柳の住宅団地、渚の住宅団地の関係。それから巴原、あるいは平砂浦、谷藤原の開発用地の関係。なお、谷藤原の開発用地につきまして前年度の残の支払い等が主なものでございます。以下分譲用地の購入事業とか、あるいは既成団地の道路の補修の関係等でございます。

委託事業としてはミンクの飼育研究事業等を一応予定したものでございます。

以上が四十七年度におきます公社の事業計画の概要でございます。その事業内容に対して、次のページにございます資金計画を一応予定したものでございますが、収入の合計の見積りを十億七千九百三十二万九千円と一応予定したものでございます。さらに以上申し上げました事業を遂行するための事業費等の予定といたしまして、支出の合計を十億三千二百八十七万一千円というようなことで計画したものでございます。

それから、さらに資金計画としまして、機械の、いわゆるブルドーザーの貸付の関係をこの表のとおりに予定したものでございます。

以上、まことに簡単でございますけれども、四十六年度の関係の決算、その他。それから四十七年度の予定につきまして御説明申し上げた次第でございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で説明を終わりました。

御質疑ございませんか。――御質疑がなければ次に進めたいと思います。御異議ございませんか。――さよう決定させていただきます。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第四十四号乃至議案第五十三号を一括して議題といたします。

## 議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） この際おはかりいたします。ただいま議



題となりました各議案は、本日は内容説明のみといたしたいと思  
います。御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よ  
って決しました。

これより順次朗読の上説明を求めます。

(「朗読省略」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 朗読省略という声がありますが御異議ご  
さいませんか。――朗読を省略して直ちに説明に入ります。

議案第四十四号 昭和四十七年六月に支給する期末手当の特例  
に関する条例の制定について

○人事課長(小沢正治君) 議案第四十四号、昭和四十七年六月に  
支給する期末手当の特例に関する条例の制定についてでございます  
が、今月期末手当を支給する時期にあたります。その具体的な  
支給につきましては、基本につきましては一応それぞれ各職別に条  
例が制定されておるわけでございますので、この基本額に対しま  
して、今回特例をお願いしまして、それぞれ給与月額〇・六カ  
月分を加えまして合計二・三カ月分を支給することといたしたい、  
そのための特例でございます。

第二条が一般職員に関するものでございまして、条文を読んで  
いただければそのとおりでございますが、ただ一般職につきまし  
ては在職期間に応じます関係上、次のページの在職期間に応じま  
す割合が一応規定してございまして、このような表になるわけで  
ございます。

第三条が市長、助役及び収入役の期末手当に関するものであり  
まして、それぞれの根拠条例に対して百分の六十を加えるこ  
うなもの。

それから第四条が教育長の期末手当でございまして、これは一  
般職に準じます関係上、条例の二条の規定を準用して適用するこ  
うことになっております。

第五条が議会の議員の期末手当でございまして、これはここに  
ございますように「非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁  
償に関する条例」の中で基本的な事項の規定がございまして、  
それに加えて月額報酬の百分の六十を乗じまして得た額を  
加えて支給したいというものでございまして、この支給期日  
が六月一日でございまして、附則でこの条例は四十七年の六月  
一日から適用するということでございます。よろしく願いたい  
と思います。

○議長(吉田勇治郎君) 次、議案第四十五号について説明を求め  
ます。

議案第四十五号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定  
について

○税務課長(越路良夫君) 第四十五議案について御説明申し上げ  
ます。本議案は館山市市税条例の一部を改正するものでありまし  
て、去る三月に公布されました地方税法の一部を改正する法律に  
関連するそれぞれの規定の整備が今回の改正内容でございまして、  
本年行なわれました地方税法の改正につきましては、住民の税負  
担の軽減、合理化、加えまして地方税制の合理化をはかるため、  
所要の措置を講じております。

本市に直接関連します事項のうち、主なものを三つに分けまし  
て簡単に申し上げますと、第一点としまして個人の市民税におき  
まして、所得控除中の配偶者控除、あるいは扶養者控除、また基



礎控除、それぞれの額を一万円ずつ引き上げております。

なお、本年度は昭和四十六年度分の所得税の給与所得控除の引き上げ等が適用されるわけでございまして、これらによりまして、夫婦と子供二人の標準的な世帯、四人世帯をみますと、給与所得の場合の課税最低限は八十万四千八百七十一円となります。前年度に比較しますと、七万六千七百八十円の引き上げというような結果をみております。

それ以外では障害者控除等の一万円の引き上げ、あるいは配偶者控除等の適用標準であります所得限度の引き上げ、また身体障害者の扶養共済制度に基づく掛け金の全額控除と、また障害者等の場合の非課税限度額の引き上げ等をみております。

それから第二点としまして、軽自動車税におきまして、軽自動車等の所有権留保のもの。これは、いわゆる月賦的なものでございますが、そのもののうち車の所在、あるいは買い主の所在等がはっきりしない場合は、これは一定の条件のもとに、それに適合しますと、売り主の納付義務を免除するというようなことになっております。

それから第三点としましては、電気ガス税におきまして免税点の額を引き上げまして、零細負担を除いていくというふうな対応をしまして、電気にありますは、従前の七百元を八百円に、ガスにつきましては千四百円を千六百円に、それぞれ免税点を引き上げる。

以上が今回の地方税法の主な改正内容のうち本市に関連するものであります。この議案四十五号市税条例の一部改正につきまして、条文の説明を申し上げたいと思います。

まず第二十四条第一項第三号の改正であります。この第三号の規定は、個人の市民税の課税にあたりまして、障害者、未成年者、あるいは高齢者、または寡婦の場合、前年の所得が一定額以下の場合には、これを非課税にするという規定であります。今回の法改正によりまして、前年所得三十八万円以下を非課税とするように改めましたので、本条例におきましても非課税限度額を引き上げようとするものであります。

それから、次の第三十四条の二の規定の改正であります。本条は個人の市民税の所得割り、納税義務者の所得控除について規定をしておりますが、所得控除の中で心身障害者の扶養共済制度に基づく掛け金は、従前これは生命保険料控除として控除していたものであります。今回の法改正によりまして、この掛け金を全額控除ということになりましたので、生命保険料控除からこれを分離しまして、小規模企業共済掛金と統合し、控除の名称を改めたものでございます。

次に第三十四条の四の規定の改正であります。本条は個人の市民税の税額算出中、変動所得、または、臨時所得がある場合の規定をうたっておりますが、変動所得とか、あるいは臨時所得の場合には、これはいづれも不定期な所得で毎年必ず得られるものではない。また、その額の変動も大きいわけですので、税法上均衡をはかるため、いわゆる平均課税という方式をとっているものであります。この適用を受ける要件としまして、市民税の申告の際に、変動、または臨時所得の事項を申告しなければいけないというふうな、従前なっていたわけですが、これが今回の改正によりまして、申告書の未提出とか、あるいは申告書にこれらの



必要事項が書いてなかった場合にもやむを得ないという事情があれば、その平均課税の適用をすることができるようにかわったわけで、したがって、条例中この関係文を改めようとするものであります。

それから次に、第三十六条の二の二項の改正であります。本項の規定は市民税の申告書の様式中、低額所得者については、簡易なと申しますか、簡単な申告方式を規定しているわけでございます。先ほど三十四条二の規定の改正の際御説明申し上げましたように、心身障害者の扶養共済制度に基づく掛け金の所得控除が小規模企業共済掛金を統合されましたので、本法におきましても規定の整備をはかるものでございます。

なお、いままで申し上げました四つの条にわたる市民税についての改正部分はこの条例の附則にもありますように、本年度の市民税から適用したいとするものでございます。

次に八十九条の関係でございますが、本条は従前削除というところになっていたんですが、このように今回軽自動車税の納付義務の免除についても、申告規定を新たにここに規定しようとするものでございます。先ほど申し上げましたが、軽自動車税等の所有権を留保しているとき、月賦販売等、あるいは、いわゆる割賦販売的なその場合、納税義務は、これは従前から売り主と買い主のいずれにもあることになっております。

しかし、実際に課税する場合には、これは買い主に対して課税するということを原則としているわけでございますが、中には、特別の場合には、売り主に課する場合もあるわけであります。

それは、今回の改正によりまして、車の所在、それから買い主

の住所等がともに不明である場合、その場合で、売り主が代金の全部、または一部を受け取ることができなくなった場合には、売り主の申告によりまして、その内容が真実であるという場合にはその軽自動車税の納付義務を免除することに相なります。

そこで、条例におきまして、この適用を受けるための必要な申告事項を規定しまして、また免除の理由がなくなった場合は、申告すべきことを規定するものでございます。この規定は附則にもありますように、本年度分の軽自動車税から適用するものでございます。

次に九十八条。一つ飛びまして、百三条第一項第四号。それからまた一つ飛びまして百十条の二の改正規定であります。これは電気ガス税につきましての関連するそれぞれの規定を整備するものでございます。御覧のように第一項から第三項まで削ろうとするものでございますが、これは地方税法附則の三十一条の規定におきまして、同条の第一項から第三項までをさしております。

法附則第三十一条は、これは電気ガス税の税率等の特例を規定しておりますが、この中に四年間の期限つき非課税となっていた特例分がございます。これが法律の改正によりまして期限なしの非課税と改正されました。これに伴ってのそれぞれの規定の表現を改めるものでございます。

それから第九十九条第一項と百七条の改正につきましては、電気ガス税の非課税の範囲から学校教育法九十八条第一号の学校、これが削除されましたので、この分を削りまして、政令で定める学校教育に準ずる施設、これは政令で児童福祉法により規定しておりますが、この施設での電気ガスは直接教育のために使用され



るものを非課税の範囲に加えられましたので、このように関係規定を改めるものでございます。これらの電気ガス税の改正分につきましては、本年六月一日から適用しようとするものであります。

それから、次に附則の改正であります。見出しを削り、附則第六項の規定から始まりまして、御覧いただきますとおわかりのように表が出ております。この内容は一見しますと非常に複雑な改正のように思われますが、簡単に申し上げますと、内容につきましては従前の内容と実質的には変更のあるものは全くございません。従前の附則は項で表わしてありましたが、これを第何条というふうに条文化し、明確に整理統合をはかろうとするものであります。この改正によりまして次のページに表で表わしておりますように、現行の三十七の項を二十四の条文に整理されることに相なります。

一番終わりのページに入りまして、この条例の附則でございますが、この内容につきましては、本文を説明する際にそれぞれ申し上げたので省略させていただきますと思います。

以上で市税条例の一部を改正する条例についての説明を終わります。よろしく御審議をお願いしたいと思います。

議長（吉田勇治郎君） 次、議案第四十六号。

議案第四十六号 鎮山市国民健康保険税条例の一部を改正する

条例の制定について

。保健課長（綱島憲治君） 議案第四十六号につきまして説明申し上げます。市長のあいさつにもございましたとおり、当初予算におきまして三五・四％の数字をお示したわけでございますが、六月本算定時におきまして、医療費の動向が約二カ月間、四十六

年の負担金の傾向というものが判明いたしましたので、今回の改正ということに相なるわけでございます。

それと内容といたしましては、私どもが一番運用の何と申しますか、幅と申しますが、そういったものを期待いたしておりました調整交付金が、四十五年度対四十六年度におきましてはほとんど伸びがないということでございます。むしろ、私ども予定した額よりもぐっと減ってきたわけがあります。それで、それが四十六年度から四十七年度への伸びはほとんど期待ができないということでございます。わずかに事務費負担金が約三百二十二万七千円程度予想した額よりも伸びるというふうな数字に相なっております。

それから繰り越し金におきまして、当初予算におきまして九百二十九万ほど見積もったわけでございますが、収支決算もまだ終っておりませんけれども、現在時点で約二百万程度しかこれが見込めなかった。

それから過年度分の療養給付費におきまして、四十六年度は百をきっておりますので、その額が、いわゆる来年度は過年度分としてはこないということで、これが九百四十五万三千円の減でございます。

それから、二月から医療費の値上がりがあったわけでございますが、当初予算におきまして約三千三百万程度の一カ月医療費を見込んだわけでございますけれども、二月、三月分の医療費をもとにいたしました、これはもう数字ではございませんので、私どものいわゆる推計と申しますか、理論的な根拠のないものでございますけれども、一カ月大体三千百三十万程度で運用がつくんで



はなからうかと、このように計算いたしました。その結果、引き当て代金として九百七十七万八千円程度しか見込めない。このような結論に相なったわけでございます。それで九百七十七万円前年に引き当てました結果、二八%弱の引き上げをせざるを得ない、このような結果になったわけでございますけれども、特に今回は低所得者層の負担を軽減すべく、昨年度までいわれるこの表にございますように、昭和四十七年度国民健康保険税算定表というのを差し上げであるわけでございますが、その裏の課税状況欄におきましてA B O D、これらのA B欄が応能の割合であります。C Dが応益割合でございます。応益割合と申しますのはいわゆる均等割りというのが一人当たりの額であります。平等割りというのが一世帯分でありますけれども、この額を今回総体に対してまして四十五、それから、応能割りいわゆるA、B欄でございますが、所得割りと資産割りを五十五、このような数字にいたしました、極力低所得者層の負担軽減を図っていきたい。このように考えたわけでございます。その結果、按分率といたしまして所得割りでございますが、市民税の百分の百五、資産割りといたしまして固定資産税の百分の四十九、これは土地家屋に関するものでございます。均等割りといまして、一人当たり二千二百二十円、一世帯当たり三千四百八十円、このような数字に相なるわけでございます。更に、今回の地方税法の改正に伴いまして、年間所得十五万以下の世帯につきましては、昨年度の均等割り、平等割りのおの十分の六を減額する、このように相なるわけでございます。それから、年間所得が基礎控除額プラス一人九万までの世帯、去年は八万円だったんですけれども、これが九万円に上がったわ

けですが、十五万プラス一人九万円、二十四万円以下の人というよりも、むしろ十五万プラス一人九万円の数字の世帯につきましては、昨年度の均等割り、平等割り、おの十分の四を減額をする、こういうふうなことでございます。

それから、条文に戻りまして第三条中「百分の九十二」を「百分の百五」に改めるといのが、昨年度市民税の百分の九十二であったものを、今年度は百分の百五、こういうことでございます。

四条の「百分の四十三」を「百分の四十九」に改めるといのは、固定資産割りをこのように改めるといふことでございます。

五条の「二千五十円」を「二千二百二十円」といふのは、一人当たりをこのように改める。

五条の「二千八百九十円」を「三千四百八十円」に改めるといふことは、一世帯当たりをこのように改めるわけでございます。

それから、十二条中の「八万円」を「九万円」に改めるといふのは、先ほど申し上げました二号該当のもの一人当たり八万円を九万円に引き上げる。このようなことでございますが、この施行期日については公布の日から、適用区分については四十七年度分から適用し、四十六年度までの保険税についてはなお従前の例による。このようなことでございます。

議案第四十七号 館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について

。教育委員会庶務課長補佐（黒川芳郎君） 議案第四十七号、館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例でございますが、学校安全会に必要な共済掛金を納付いたしまして、学校の管理下におきまして発生した災害に対して必要な給付を受けること



を目的としているわけでございます。

今回、政令及び省令の一部改正に伴いまして、その共済掛金が一人年間いままでも百十円のものから百八十円となったわけでございます。保護者の負担する分は従前どおり二分の一でございます。

したがって、条例を改正して「五十五円」とありますのを「九十十円」に改めようとするものであります。

議長（吉田勇治郎君） 次、議案第四十八号。

議案第四十八号 館山市幼稚園設置条例の一部を改正する条例の制定について

。教育委員会庶務課長補佐（黒川芳郎君） 議案第四十八号、館山市幼稚園設置条例を改正する条例でございますが、現在館山市におきましては、地区別にみますと、十地区のうち九地区まで公立幼稚園が設置されておるわけでございます。豊房幼稚園地区のみが未設置の状態であります。

そこで、幼児教育の重要性和教育の機会均等の立場からいたしまして、本年の九月一日から五歳児のみを対象といたします豊房幼稚園を設置いたしたいと考えてまして、条例の一部の改正をお願いいたします次第でございます。

構想につきましては、去る三月、市議会におきまして御了承をいただきましたとおります。

議長（吉田勇治郎君） 次、議案第四十九号。

議案第四十九号 館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定について

。福祉事務所長補佐（森 信次君） 議案第四十九号、館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定についてを御説明申し上げます。

す。

館山市保育所条例の別表に純真保育園、九重保育園、館野保育園、船形保育園、四つの保育園がございますが、さらに、これに「館山市大石一七三番地の一 館山市立房南保育園 六十名」を加えることを御審議いただくわけでございます。

これにつきましては、先ほど市長さんもお話のとおり去る三月の定例市議会におきまして、予算の御決定をいただきまして、神戸、富崎地区を対象といたしまして、乳幼児の保育所でございます。

建築場所は大石の一七三番地の一、ちょうど神戸小学校の西側約百メートルの地点でございます。民有地九百九十平方メートル、約三百坪借用いたします。そこに床面積三百三十一平方メートル、約百坪、木造かわらぶき、平家建て一棟を建築するためにすでに敷地の整備も終了しました。

定員六十名の同保育園は九月の開園を目標に工事が行なわれる予定でございます。

なお、この房南保育園が完成をいたしますと、館山市立の保育園は合計五カ所になるわけでございまして、私立を含め一応市内の全地域にわたりまして保育所ができることになるわけでございます。

議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後二時 休憩

午後二時三十二分 再開

議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。議案第五十号説明願います。



議案第五十号 館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について

土木課長（飯田治男君） 議案第五十号、館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定についてを御説明申し上げます。

北条小学校あと地を都市計画事業といたしまして、四十六年、四十七年度の二カ年の継続事業で工事を実施いたしております。四十六年度に総面積一・六ヘクタールのうち約〇・八ヘクタールを完成いたしましたので、別表に「中央公園 館山市北条一五〇番地の一」を追加いたしましたので、今後維持管理をいたしていきたいということでございます。

よろしく願ひいたします。

。議長（吉田勇治郎君） 次、議案第五十一号。

議案第五十一号 字の区域及び名称の変更について

。農産課長（石井 謀君） 議案第五十一号の字の区域及び名称変更につきまして御説明申し上げます。

変更理由といたしましては、神戸地区藤原の市の衛生処理場隣地の台地でございますが、そこに約五万三千平米の土地があるわけでございますが、これを事業主体である谷藤原土地改良事業共同施行、代表者上野孝之助ほか十一名によって区画整理をいたしまして、その区域及び名称の変更をお願いいたしたい次第でございます。

なお、内容につきましては変更調書及び別添いたしました図面によって御了承承りたいと思うわけでございます。

以上でございます。

。議長（吉田勇治郎君） 次、議案五十二号について。

議案第五十二号 千葉県競輪組合の構成団体数の増減およびこれに伴う規約の改正について

。財政課長（長谷川広治君） 議案第五十二号について御説明を申し上げます。本件は市制の施行期日の関係から三案件に分かれております。

最初の案件が茂原市と本納町との対等合併によりまして、古い茂原市が消滅いたしましたもので、新たに設置されます茂原市を四十七年の五月一日から競輪組合に加入をさせていこうという案件でございます。

次の案件は我孫子、鴨川、鎌ヶ谷、君津及び富津の新しい五市を加入をさせていこうというものでございます。

三つ目の案件は、競輪組合の一部改正の規約でございますが、改正の要点といたしまして四つございます。第二条の関係でございますが、これは組合を構成いたします市の数でございますが、いままでは十九市でございましたものを、五市を入れてまして二十四市に改めるといふものでございます。

それから五条の関係が組合議会の議員の定数でございますが、現在まで二十七名でございましたものを三十名に改正をする、旧八市は二名宛、前の新市十一市が各一名、新たに加入をいたします一番新しい市が五市の中から三名の議員を選挙するということでございます。

それから第六条の関係でございますが、これは実質には関係がございませんが、形式を整えるということで、改正の案件でございます。いままで議員の任期は二年ということになっておりましたが、それぞれ現実の任期と申しますものは、各出身地区の議員



の任期によっておったわけでございます。そのほかいろいろの關係から辭職、辭任ということがあつたわけでございますが、名稱を關係市のそれぞれ議会の議員の任期によるということに改めたい、そして補欠の任期も前任者、いわゆるその市の議員の任期にやるということに改めたい。実質は条文訂正でございます。

それから第十条が配分關係でございます。配分關係は第十条の次に一項を加えるということで新しく入る五市に対しての規定でございます。新しく入ります五市に対しては、県が松戸一回分を譲渡することになっておりますが、このうち利益の一億五千万以下の場合には、新しく加入をした五市が平均で配分をする。一億五千万から二億までの利益があつた場合には、その一億五千万以上のものについて十一市が均等に利益配分をする。二億をこえた利益については、八市が均等に配分をする。いままでの十回の開催権をもつ十九市の分については、いままでの規定のとおりに配分をしていく。ですから配分の關係が二つに分かれます。十九市の配分關係、新しく五市を入れました後の配分關係、そういうふうに二区分に分ける予定でございます。

なお、関連して申し上げますと、松戸の譲渡される回数は一回でございますが、開催のうちの何月を県が譲渡するかということはまだ未定でございます。したがしまして松戸の配分については平均をした額を、この数字によって配分をしていくという事務的な予定をいたしております。したがしまして、大体平均をしますと、かたいところでは二億三千万程度のものではなからうかという予定をいたしております。したがしまして三千万程度のものを私どもの關係では八市で配分をしていくということに相なる予定

でございます。

簡単にございますが、説明を終わります。

。議長（吉田勇治郎君） 次、議案第五十三号説明求めます。

議案第五十三号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算（第

二号）

。財政課長（長谷川広治君） 議案五十三号について御説明を申し上げます。

四十七年度の市の一般会計の第二号補正予算でございます。今回の予算補正におきましては第一条に計上してございます歳入歳出だけの補正でございます。歳入歳出予算につきましては、今回一千五十八万一千円を追加いたしました。一般会計の予算規模を二十四億一千八十八万八千円といたす予定でございます。なお、細部につきましては、それぞれ主管課長から順次御説明申し上げます。

。交通課長（山口 一君） 八ページを御覧いただきたいと思ひます。

第二款第一項一〇目の交通安全対策費について御説明いたします。交通安全対策費に百万円を追加補正をいたしまして、補正後の額を二千三百八十四万三千円にしようとするものであります。

この内訳といたしましては、交通安全施設整備工事請負費でございますが、これは歩道の設置工事費について、このたびの事業が確定いたしましたので、補助額が内定いたしましたので差額として歳入歳出にそれぞれ百万円を追加補正をお願いするものでございます。

。市民課長（佐野甲子郎君） 同じく八ページの一五目諸費につい



て御説明申し上げます。

今回六万五千円を補正しようとするものでございますが、この財源は県の支出金でございます。九節の旅費三万三千円から一八節備品購入費一万五千円までの計上額につきましては説明欄のとおりでございます。自衛官の募集事務に必要な諸経費でございます。終わります。

○農業委員会事務局長（岩崎一郎君） 引き続き八ページの農業委員会の補正につきまして御説明申し上げます。

今回の補正額は八十八万円でございます。当初との合計額で一千四百七万八千円と相なります。これは全額県支出金でございます。

補正をお願いいたしますものは、国有農地売り払いに関する特別措置法に基づきまして市街地化の中にある農地を元の地主に両三カ年のうちに売り払いすると、こういう業務に関する額をお願いいたしますのでございます。

内訳といたしましては、こうした膨大化する業務を処理する上におきまして、臨時職員の一名を雇い上げたい。それから能率の向上、こういったことで自動車の一台購入をお願いいたしたい、これが主なものでございます。

また、今回の補正につきましては、館山市としてちょっと何とと申しますか、事情と申しますか、性格と申しましょうか、こういったものが県下で特異な存在でございますので御了承願いたいと思っております。

その一つは、売り払い対象になる国有農地の筆数が、全県下でおおむね八百筆で約三十万平米でございます。これは県で聞き合

わせましたところ概数で、確定した、見込み数はまだ出てない。八百筆で三十平米という御返事がございました。

このうち本市におきましては約三百二十、面積にいたしまして約十平方メートル、約十ヘクタールですか、程度が館山にあるこういうことでございます。大体県下の三分の一に当たる、このような膨大なものが、当市がかかえておるわけでございます。

次にもう一つの点につきましては、これは当初予算に間に合わなかったということでございますけれども、これは国から流れてまいります詳細な取り扱い要領の一部に未確定なものが残っており、特に売り払い業務の大部分が、われわれ末端の農業委員会にかかってきております。

そういうことに対する県の交付金の額や、その内容が非常にまちまちでわからなかったということのために、三月の当初予算にお願いすることができなかった。こういう事情でございます。このため四月に入りますと、直ちに県から詳細な県の要領が指示されたわけでございます。

大体、四十七年度に対しまして県の考え方といたしましては、一筆当たり一万円を下らない額で交付したい。大体、県全体で二百五十筆程度を予算化した。こういうことでございます。

今回の補正額は県総額の三分の一に当たるものを当市において消化していきたい、こういうふうに考えております。その目標によって担当委員会としてあくまでもこの消化につとめてまいります。そのために今回の補正をお願いいたしたのでございます。

各節の内容につきましては、説明書に書いてありますとおり、不足する人手を充足するために臨時職員一名、大体このような額



でお願いしたいということでございます。

一一節の需用費につきましては、消耗品費につきましては、これは実測測量いたします、地図の費用でございます。

それから燃料費につきましては、先ほど御説明申し上げました自動車の燃料でございます。修繕料は存目として計上いたしました。

第一二節の役務費は三万一千円でございますが、自動車保有に基づきます自賠責の保険料並びに共済基金分担金でございます。

一八節備品購入費、これは四十六万円計上いたしました。先ほど申し上げました自動車の購入費でございます。大体千二百程度のライトバン、スタンダードというものを予定してございます。

これによりまして売り払い業務の測量、境界、立ち合い等によりまして使用いたしたい。さらに、従来どおりの委員会の業務がございますので、こういった実地調査等に運用、活用してサービスの効率化とも申しましょるか、そういったものに措置してまいりたいというふうに考えておりますのでお願いいたします。

第二七節につきましては、購入したライトバンの重量税でございます。

以上、簡単ではございますけれども御説明申し上げたので、よろしく御審議いただきたいと思います。

。農産課長（石井 謀君） 引き続きまして三目の農業振興費につきまして御説明申し上げます。

一九節の負担金補助及び交付金三十四万八千円を追加お願いしたいわけでございます。これは野菜指定産地生産出荷近代化事業補

助金でございますが、この事業は神戸地区のレタスが野菜生産地として指定を受けまして、四十六年度に神戸の農協支所のわきに六百四十八平米の集出荷場を新設いたしましたわけでございます。当初補助事業といたしまして認定がなかった建てるものの周辺の排水工事でございますが、これは事業費にいたしました七十二万七千円でございますが、これが五月の県の本審査の段階でこの事業費が認められまして、三十四万八千円の上のせ補助がまいったわけでございます。この同額を事業主体であります市農協に補助しようとするものでございます。

よろしく御審議いただきたいと思います。

。水産課長（谷貝茂生君） 三項の水産業費につきまして御説明申し上げます。

今回七百七十八万二千円の追加補正をお願いするものであります。船形と富崎漁港の工事が大体計画内定しまして、県のほうから内示がございまして、金額は一千百七十八万ばかりかかるといふことで、当初予算で四百万計上してございますので、その不足分としてお願いしようとするものであります。

船形港につきましては、主として航路、各種のしゅんせつ、それから西防砂堤のかさあげ、富崎漁港につきましては船あげ場の上張り、防波堤のかさあげ、物あげ場の上張り等を予定しております。

よろしくお願いいたします。

。教育委員会庶務課長補佐（黒川芳郎君） 一〇款の教育費につきましては第二項小学校校費二目教育振興費におきまして五十万六千円の補正をお願いするわけでございます。



これは九月一日からの実質統合に伴いまして、豊房小学校畑校舎の児童十一人を朝と午後の二回、二台のタクシーによりまして、畑地区の青年館の前から豊房小学校まで通学させるための委託料でございます。

タクシーを使用する日は、来年の三月まで、百五十八日でございます。

。財政課長（長谷川広治君）　なお、八ページの三款の民生費で財源補正をいたしております。これはのちほど歳入で説明申し上げますが、国民年金関係の国庫補助金が増額の予定でございますので、今回これを計上いたしまして百四十四万四千円的一般財源から国、県への支出金を予定しております。

以上、合計千五十八万一千円程度ということになります。引き続きまして、六ページの歳入を御説明申し上げます。

今回市税のうち固定資産税として百五十四万三千円を計上いたしてございます。これは国有資産等の交付金が決定をいたしましたので、当初計上した額よりも百五十四万三千円ふえておりますので、今回これを計上いたしましたわけでございます。

それから都市計画税におきまして七十二万二千円を計上してございます。都市計画税につきましては、なお若干の移動がございますが、大きな数字としてはほぼ確定をいたしました。当初予算と比較をし、収納率を九八・六％で押さえますと、なお七十二万二千円の財源ができますので、今回、それを計上いたしてございます。

それから拠出制の国民年金事務の取り扱い交付金と福祉年金の取り扱い交付金を百二十万に二十四万四千円をそれぞれ計上いた

してございます。これは四十六年度の補助額が決定いたしました時点で償還率、あるいは四十七年度の交付金等を勘案いたしまして、この程度のもは収入増ということで計上いたしてございます。

一 一款の県支出金におきまして、それぞれ歳出におきまして御説明を申し上げました関連経費の分でございます。

一 三款の寄付金で十七万減額をいたしました。これは漁港関係の工事に伴う地元組合負担金の減額でございます。

一 六款の諸収入におきまして預金利子、歳計現金の預金利子として百七十二万計上いたしてございます。四十六年度の決算額が四百十万一千円ばかりでございますので予算の伸張、それから現金保有高等を勘案いたしまして一五％の伸びがあるものと考えまして、当初予算に三百万計上いたしましたので、今回百七十二万計上いたしてございます。

それから収益事業関係で、競輪事業収入として三百三十七万七千円を計上いたしてございます。これは先ほど御説明申し上げます競輪関係の配分関係改正に伴って、当初予算との差額を追加いたしましたわけでございますが、今回三百三十七万七千円を計上いたしましたのが、収益が二千八百五十一万六千円程度というふうに押さえますと、そのうち五％を公営企業交付金に納入することというように法律上なっておりますので、その額をひきました二千七百一十六千円を八市で割るという予定をいたしまして、計上いたしてございます。

簡単に御説明申し上げましたが、歳出と同じく一千五十八万一千円でございます。この結果、特定財源が二六％〇八、一般財源



が七三・九二という比率になりました。

以上で説明を終わります。

。議長（吉田勇治郎君） 以上で各議案の説明は終わりました。

## 延

## 会 午後三時延会

。議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。議案審査のため明  
六月七日は休会いたしたいと思います。これに御異議ござい  
せんか。― 御異議なしと認めます。よって明六月七日は休会す  
ることに決しました。本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。  
よって本日はこれにて延会することに決しました。次会は六  
月八日午前十時開会いたします。その議事は通告による行政一  
般質問といたします。長時間御苦勞さまでした。

。本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、報告第二号

一、議案第四十四号乃至議案第五十三号



